

平成 29 年度 第 1 回学校協議会議事録

○開催日時 平成 29 年 6 月 30 日(金) 15 時 30 分～17 時 00 分

○開催場所 池田高等学校校長室

○出席者 【協議会委員】

桑畑進(大阪大学大学院工学研究科教授)、萬川幹夫(本校同窓会会長)、阪晃一(石橋中学校長)

鍋島浩(本校後援会会長)、松浦周介(旭丘自治会)

【事務局(教職員)】

校長、教頭、深江首席、森首席、山下教務主任、榎本進路指導主事 (計 11 名)

○議事進行 教頭の司会により学校協議会開催。校長の挨拶の後、出席者の紹介及び資料説明を行い、その後、桑畑委員を議長として協議事項に移る。

○協議事項

1. 学校協議会実施要項 事務局より学校協議会実施要項について説明。

2. 学校経営計画(校長より説明)

本年度運営に関して、以下の重点項目を中心に説明。

目指す学校像：「自主・自律・貢献」を生徒育成の指針として改めて校内で徹底。「自主・自律・貢献」を浸透させる具体的取組みを、学年団、分掌、教科、教員で実践していくことが、本年度最大のテーマ。

① 池高型アクティブ・ラーニングの推進、方針の明確化

- ・教科特性や単元により、知識習得を重視するか、汎用的能力育成を重視するか使い分ける。
- ・扱う教科、単元によってプログラムを考慮する。(内化⇒外化⇒内化のプロセスを有効に回す)
- ・アクティブ・ラーニングを「自主・自律・貢献」を育む学校運営とリンクさせて取り組む。
- ・昨年度に続き、1, 2 年生に対してディベートを訓練する。
- ・汎用的能力育成は教科指導の中では完結しないので、学校の取組み全てで引き受けて取り組む。

② 自学自習力の育成

- ・生徒の意欲・関心を引き出すのが教師の役割。意識的に学ぶ側の主体性を引き出す。
- ・本年度初めて 7 月下旬に 2 泊 3 日の自学自習(勉強)合宿を開催する(自由参加)。

③ 「志」の育成と生徒全員の進路保証実現

- ・目標に対して安易に妥協させない進路指導に重点。

④ 学習と部活・行事を両立させる生徒育成

- ・昨年度の学校教育自己診断アンケートで唯一生徒肯定率が下がったのが「学習・部活の両立」。
- ・部活・行事も貴重な学校文化であり「文武両道」が社会に出てからの「生きる力」に通じる。文武両道とは、同時に複数のタスクを与え、それを生徒が自分で意識してマネージすることに意味がある。

⑤ 本校の安全安心基盤、広報体制充実

- ・前年度作成した生徒用対策マニュアルを活用した取り組み継続。
- ・大規模災害時初期対応マニュアルを作成して、生徒にも周知する。
- ・中学生への情報提供を学年やクラブのブログを通じて、継続的に行う。
- ・今後大学入試改革等に対する、本校の様々な取組みが滲み出るような HP が必要。

3. 教務部より説明

- ・入学者選抜の概要について
- ・教科書採択について

4. 進路指導部より2016年度進路結果の説明

【現役進学者数】

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
国公立大学	: 50名	⇒ 65名	⇒ 41名	⇒ 71名	⇒ 82名
関・関・同・立	: 97名	⇒ 102名)	⇒ 129名	⇒ 111名	⇒ 98名
合計	: 147名	⇒ 168名	⇒ 170名	⇒ 182名	⇒ 180名

○質疑応答・意見交換

(委員) 推薦入試について、どう指導しているか。

(学校) まず、3年生徒全体に春に進路ガイダンス(説明会)実施、その後、推薦入試を受験する可能性ある生徒に説明会を開催している。指定校推薦、公募制推薦、国公立との違いを理解させ、易きに流れないように指導、受験を決めた生徒にはしっかり対策を立てさせる。国公立推薦の受験者は30名程度。

(委員) ディベートのやり方は。

(学校) 担当教員が自ら研究しつつ、計画を立てて訓練している。授業の中で事前に班編成をして、生徒は根拠となるデータ・資料の収集から始める。1・2年生の連続したディベート訓練で、2年生の段階では論理的思考力が深まるよう意図している。

(委員) 府立高校の入学者選抜の方法は公表されているのか。

(学校) 大阪府教育庁のホームページで公表されている。

(委員) それは府や市で違いはあるのか。

(学校) 大阪府内は同じだが、他府県とは選抜方法は違っている。

(委員) 校長は学校の現状をよく分析したうえで、求める生徒像を明確に設定して結果を出してきた。本年度で校長は任期終了とのことだが、次の新校長が極端に経営方針を変えて学校を混乱させないよう希望する。

(委員) 足元の進路指導は充実しているが、大学入試改革(大学入学共通テスト導入等)に関して、対象となる来年度入学の生徒(現中学3年生)に対する指導方針を明確にしていく必要がある。又、不本意入学の生徒に対する対応は、難しいが検討していく価値がある。(中学では、教育相談週間を設定して、担任がクラスの生徒と全員面談をする機会を持っている。その機会を通じて生徒の不本意入学等の悩みを知ることができる)

(委員) 「文武両道」の中で「文」のお話が多かったが、「武」で成功した取組みを部活顧問から聞く機会があっても良い。就職してくる学生の中で、自分が本当に何をやりたいのか、目的を持たない人が多いが、入れる大学ではなく、目的を叶えるための大学に行く指導をお願いしたい。目的意識の醸成やキャリア教育の中に、進路指導が位置づけられる。

(学校) 学校は様々な場面で自分の目的を意識させるキャリア教育を実施している。去年は職業別社会人講話だけでなく、畑を耕し自給する夫婦や陶芸家等、生徒の周りの人と異なる価値観の社会人講話を実施。又、高校を中退してから夢を実現させたプロの講演家による講演会等、普通の学生生活では出会えない社会人の価値観に触れさせ、考えさせる機会を作っている。

以上